

2019.March



**今号の内容**

心身健康センター 伊藤所長から **受動喫煙防止の取組について** 学生会・院生会様より **一年を振り返り 今年度から来年度**

**国際交流** 光州教育大学での授業研究研修... 両国の懸け橋となるような主催者の育成を目指して... **ジャマイカ・算数教育の現状から考える教育の意義**

このたびは **「保育の楽しみ」** 附属幼稚園 居上先生から **未来を拓く力を育てる社会科学習** 附属中 大谷先生から **鳴潮祭を終えて 実行委員長からのコメント ほか**

# 学園だより

GAKUENDAYORI

受動喫煙防止の取組について.....	心身健康センター 所長 伊藤 弘道	1
学園を巣立つ前に.....		2
学園を巣立つ前に	技術科教育コース 高瀬 将真	
一生の友人と共に	社会科教育コース 廣川 修人	
学園を巣立つ前に	特別支援教育専攻 仁木 智輝	
かけがえのない出会い	言語系コース（国語） 山田 飛翔	
挑戦	生活・健康系コース（技術・工業・情報） 香西 孝行	
懸情流水 受恩刻石	芸術系コース（美術） 碓 勝貴	
学びに感謝 出会いに感謝	教職実践力高度化コース 坂田 美佳	
先輩からのメッセージ.....		9
黄金の一年間	平成 29 年度卒業生 久保 佳加	
退職にあたって.....		10
辛楚と恪勤	言語系コース（英語） 教授 前田 一平	
人生の半分を過ごした鳴門	自然系コース（数学） 教授 松岡 隆	
「声とからだ」に向き合って	芸術系コース（音楽） 教授 頃安 利秀	
退職のご挨拶	芸術系コース（美術） 准教授 森 真美	
退職に当たって	生活・健康系コース（保健体育） 教授 乾 信之	
退職にあたって	生活・健康系コース（技術・工業・情報） 教授 尾崎 士郎	
国際交流.....		12
光州教育大学での授業研究研修 一両国の懸け橋となるような主権者の育成を目指してー	社会系コース 准教授 井上 奈穂	
初めて素晴らしい学外研修の経験	特別聴講生 <small>トンウィチアン タナボン</small> TONGVICHIAN Tanapon(タイ)	
ジャマイカ・算数教育の現状から考える教育の意義	国際教育コース 板垣 暁歩	
こんにちは附属です.....		16
保育の楽しみ	附属幼稚園 居上真梨子	
修学旅行	附属小学校 教諭 久次米昌敏	
未来を拓く力を育てる社会科学習	附属中学校 教諭 大谷 啓子	
本校のセンター的機能	附属特別支援学校 発達支援センター長 川人 健司	
鳴潮祭を終えて.....		18
鳴潮祭を終えて	第 35 回鳴潮祭（大学祭）実行委員会 委員長 池田 大輝	
学生会・院生会だより.....		19
1 年を振り返り	学生会長 居神 篤史	
今年度から来年度	院生会長 竹下早慧子	
課外活動 News ～サークル紹介～.....		20
サッカー部	前田 健吾	
女子ハンドボール部	中川羽菜恵	
合唱団“tadpole”	福澤 佳奈	
アカペラ同好会	長谷川大航	
健康手帳「喫煙の害について」.....		22
図書館だより.....		23
学生表彰について.....		24
行事予定 / 編集後記.....		25

# 受動喫煙防止の取組について

皆さん、こんにちは！ 本学における受動喫煙防止の取組と新たな学内方針についてお話したいと思います。

2018年（平成30年）7月25日に「健康増進法の一部を改正する法律」（いわゆる「受動喫煙防止法」）が公布されました。本法律では「望まない受動喫煙」をなくす、特に未成年者や患者に配慮するということが基本的な考え方になっています。学校現場では2019年7月1日より施行予定となっており、それに伴い学校敷地内禁煙が徹底されることとなります。

本学では2010年7月1日より大学敷地内禁煙を実施し、敷地内の受動喫煙防止はほぼ守られるようになりました。しかし、一部に正門や東門付近で喫煙をしている人がおり、門を通るときに受動喫煙の恐れがあり、また吸い殻を路上に捨てるなどマナーの面で近隣住民からの苦情も寄せられています。

そこで、本学では2018年7月に、田中弘之副学長を座長に教員だけでなく学生院生も委員として加わり「禁煙教育検討会」を立ち上げ、12月に提言を学長にしました。その提言に基づき、本学では次の方針を、2019年3月1日から実施します。

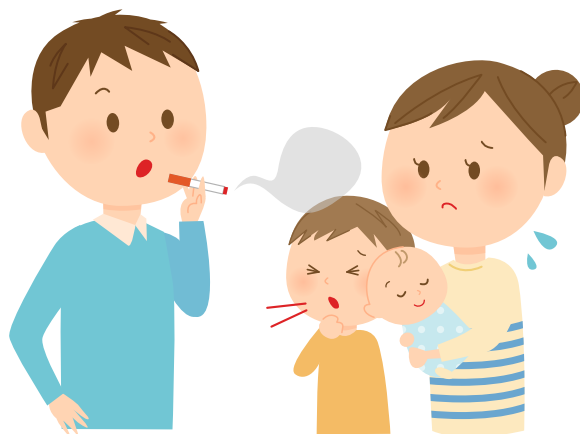
## ◆ 心身健康センター所長 伊藤弘道

- ①：本学敷地内とともに、正門・東門周辺を含め、教職員・学生の本学敷地内周辺での喫煙を禁止する。
- ②：本学敷地内（屋外）に、受動喫煙を防止するために必要な措置が取られた喫煙スペースを設ける。
- ③：喫煙スペースは暫定的なものとし、本学関係者における喫煙者ゼロに向けて取り組む。

なお、電子タバコ、加熱式タバコなども従来の燃焼式タバコと同様の扱いです。

本学が教師教育のみでなく、受動喫煙対策についてもリーダー大学となれるよう、皆様のご協力のほどよろしくお願いします。

ところで、本誌22ページの「健康手帳」に、タバコの害について記載していますので、ご一読いただければ幸いです。



# 学園を巣立つ前に

## 学園を巣立つ前に

### ◆ 技術科教育コース 高瀬将真

私はこの春から、香川県中学校教諭として働きます。中学3年生の頃から教員を目指し始め、鳴門教育大学に入学しました。

1年生から2年生の中頃までは全力で遊び、様々な人との関わりが増え、色々な経験をする事ができました。

2年生の終わり頃からは教員採用試験の勉強を始めましたが、勉強の習慣がついていなかったため、勉強をしようとしてもうまく体がついていきませんでした。そんなときは就職支援室の先生方のもとへ行き、話を聞いてもらいながら何度もアドバイスをいただきました。また、鳴門教育大学には同じように教員を本気で志す学生がたくさん居るので、お互いを高め合える良い環境にあると思います。

3年生の終わり頃からは、教員を目指す学生と共に教員採用試験に向けてチームを作り、対策に取り組んだりもしました。苦しい時も仲間がいることで救われ、周りの助けがあったからこそ最後まで頑張り、無事合格することができました。

色々なアルバイトをしてきましたが、教員採用試験が終わってからは、鳴門金時や鳴門わかめなどの鳴門を支える産業でアルバイトをして、教員とは違う職種の方々と関わる事ができました。そこで多様な価値観に触れることができ、自分の心の成長につながりました。

誠に勝手ながら、最後にメッセージを残させていただきます。「人は一人では学べません。文献等で学べる知識だけでは不十分です。実際に行動し、人と関わりながら、実際に経験を積むことで成功への道が開けます。また、自分の価値観だけに縛られるのではなく、悩みがあるときこそ色々な人と話せる環境に自分の身を置くことが大切です。周りの人と話をする中で、自分なりの答えが見つかると思います。」

鳴門教育大学は教員になるにはとても素晴らしい環境です。ぜひ、社会人になるまでに様々なことにチャレンジし、今しかできない経験をたくさん積んでください。



# 学園を築立つ前に

## 一生の友人と共に

「教員免許を取得し、教師になることはどの大学でも可能です。」

しかし、「鳴門教育大学で学び、教師になること」はどんな意義があると言えるのでしょうか。それを念頭に置いて、私の大学生活を振り返ろうと思います。

入学した当初、私はこの大学に対して「何なのこれ。人数少ないし、大学は島にあるし、車が無いとどこにも行けないし、何か良いことあるのか？」と憤りに近いものを感じていたと思います。

しかし、2年、3年と経っていくうちに変化していったのです。では、何がどのように変化したのでしょうか。

それは、人数が少ない上に教育学部しかない単科大学だったからこそ「意識を高く、モチベーションを保ちながら勉学に励むことができる」のだと気付けたことです。「教師になる」という目標があったとしても、人間サボりやすく目標を見失い、

### ◆ 社会科教育コース 廣川 修人

挫折しがちな生き物です。ですが、この大学では同じ目的を持った人ばかりがいるので、とても助けられました。

特に、4年次の教員採用試験に向けての勉強では、周りの人たちにかかり頼りました。

少し想像して欲しいのです。教職という特殊な職業柄だからかもしれませんが、教師になる＝就職するために協力し合うって考えられますか？自分の未来に不安を抱えていても、その不安を話すことのできる・真に理解してもらえる人たちがいる環境はなかなかないと思います。

最後に、本当に社会科の同期には感謝しています。互いの個性を認め合い、他人のことを自分の身になって考えられる、あんな友人たちに巡り合えたことは、一生忘れません。

そして、在学生の皆さん。人生の夏休みとも言えるこの大学生活を、ぜひ充実したものにしてください。



# 学園を巣立つ前に

## 学園を巣立つ前に

◆ 特別支援教育専攻 仁木智輝

「教育の一番札所」。今では聞きなれた言葉ですが、入学当初はその意味をよく理解していませんでした。「教育の基礎を学ぶところかな?」と、漠然とした疑問を抱きつつ、2年前、一番札所の門をたたきました。

教育学部出身ではない私は、まず教育の基礎を学びたいと考えていたので、そのための勉強に取り組みました。講義やゼミでは、基礎的な理論や指導方法を学び、学んだ内容はフィールドで実践することができました。例えば子どもの興味・関心を指導に生かすことは、特別支援教育では基本だと思いますが、これを実践してみると、子どもが楽しみながら学習するようになり、その場面がとても印象に残っています。この経験が後々の教員生活につながるのかと、「教育の一番札所」の意味が少しわかったような気がしました。

ある日、卒業式の練習中の学校に何うと、子どもたちは体育館に集まっていました。その中で、体育館に行きたくない、と訴える子どもがいました。どうすればいいか。体育館に無理矢理つれていくか、別室で一緒に過ごすか、私は子どもにとって一番良い選択がわからず、何もできないままでした。「教育の一番札所」で学んだ理論と実践や、私の乏しい学校現場での経験だけでは何もできず、失敗、そして挫折をしたのだと思います。

このままではいけない。教育の理論と実践だけではなく、「教育の一番札所」で学ぶことはもっ

とたくさんある、と考えるようになりました。その答を探して、教育以外の分野の本を読んだりもしました。しかし、その答を教えてくれたのは本ではなく、映画でした。

その映画は「ルート88」といいます。この映画のテーマは「お遍路」で、白血病を患う主人公が、挫折・失敗・不安といった、人間の発達にはマイナスと思われがちな要素と向き合いながら遍路道を辿るストーリーです。マイナスな要素をもたない人間はいない。けれども、人間のマイナス要素は、プラス要素ともなり、自分を成長させてくれる。「ルート88」は、そんなことを教えてくれました。

「ルート88」の主人公は、実際に「お遍路」をすることで、学び、成長しました。私は教員生活も、「お遍路」と同じように、失敗しながらも学び、成長する道を辿ると思いました。では、「教育の一番札所」で、私たちは何を学ぶのでしょうか。私は、「教育の一番札所」とは、失敗し、挫折しながらも「経験し、成長する」ことを学ぶ場所だと、今では思っています。あなたにとって「教育の一番札所」とは何か、考えてみませんか。



# 学園を築立つ前に

## かけがえのない出会い

たくさんの出会いが、私を支え、育ててくれた大学生活でした。

教師になるという夢を叶えるため、鳴門教育大学に入学したのは6年前のことです。学生生活には、大変なこともたくさんありました。人前で話すことがあまり得意ではなかった私は、模擬授業や発表で苦勞しましたし、教師になることに不安を感じた時期もありました。そんな私の不安を取り払ってくれたのが、教師になるという同じ夢に向かって励んでいる友人たちです。鳴門教育大学で出会った仲間たちは、教師という仕事に希望を持って集まった人ばかりでした。そのような友人たちと夜遅くまで授業について考えたり、どんな教師になりたいかを語り合ったりした日々は、教師になりたいという私の思いを、より確かなものにしてくれました。そして、2年前の春、友人たちの多くは夢であった教師になっていきました。一方、私は、私の目指す良い教師になるためにもっと多くのことを学び、たくさんの経験をしたいと思い、大学院へ進学しました。

大学院での授業やゼミは、より高い専門性を身に付けるのにぴったりでした。また、大学院での多くの出会いも、私の世界を大きく広げてくれるものでした。教育学部出身の私には、文学部出身の人たちと受ける授業は、自分には思いもつかない考え方を知ることができる新鮮な時間でした。現職の先生方と一緒に勉強させていただく機会も

### ◆ 言語系コース（国語） 山田 飛翔

多く、そこでは学部生の時にはあまり知ることができなかった、学校現場の実際を知ることができました。

学外での出会いも、かけがえのないものでした。スポーツクラブのボランティアでは、子どもたちと一緒に運動するだけでなく、試合の引率や、チームスポーツの指導など、めったにできない経験をさせてもらいました。また放課後子ども教室のボランティアでは、小学生に絵本の読み聞かせをしたり、一緒に工作をしたりと、これからの教師生活にすぐさま活かすことのできるような経験を積ませてもらいました。

同じ夢を持った友人たち、やさしく丁寧に授業をしてくださった先生方、様々な経験をさせてくださったボランティア先、たくさんの出会いがあって、今の私があります。本当に感謝しても感謝しきれません。これらの出会いが大学生活の何よりの宝物です。この6年間の経験を糧に、立派な教師を目指し、頑張っていきます。本当にありがとうございました。



# 学園を築立つ前に

## 挑戦

◆ 生活・健康系コース（技術・工業・情報） 香西孝行

私が教員を目指し始めたのは大学時代でした。当時たくさんの先生・教授から言われたことは「たくさんの体験をなさい」でした。大学生活を過ごしていくうちに、教員は子ども達を育てる仕事であるため、責任感のある人材が求められると知った私は正直今のままの知識では到底足りていないと感じ大学院に進学しました。

大学院では興味があった技術コースに進み、座学・実技を1から学びました。教授方の丁寧なご指導を受けることによって、これまで知らなかったたくさんの知識・技能を少しずつ身に付けることができました。修士研究でも分からない事があった場合でも分かりやすく丁寧にご指導していただいたおかげで、自信の持てる修士論文が完成しました。

また部活動では鳴門教育大学ハンドボール部のコーチとして参加させていただきました。指導することの大変さや、自分が発した言葉の責任を持つ等これまで味わったことがなかった体験ができました。コーチをして一番学んだことは「人とのコミュニケーションの大切さ」です。選手が考えた作戦を聞いたり、考えて行ったプレーに対して評価する場合、ただ「ナイスプレー」・「今のは駄目」だけでは何が良くて何が駄目なのかが分からないため、「今のは〇〇だから良かったよ!」・「今のは〇〇だから失敗したんだよ」と具体的に言うことで選手達は次のプレーに繋げることができて

いました。時には選手との意見の食い違いで激しくぶつかる時もありました。しかし言いたいことを先輩・後輩という壁を越えて言えることはとても大切なことだと感じました。そして大会で選手たちが日々の練習でやってきたことが十分に発揮できている姿をみると喜びを隠しきれないほどでした。

今3年間を振り返ってみると、あっという間ではありましたがとても有意義な時間を過ごせたと思います。大学4年の時、鳴門教育大学に進学するという選択は大正解でした。4月からは教壇に立ちます。その時に生徒たちに一番言いたいことは「感謝の気持ちを忘れない」ことです。今の自分があるのは本当にこれまで関わってきた多くの人たちのおかげです。そのことを忘れずに社会に出ていきたいと思っています。





# 学園を築立つ前に

## 懸情流水 受恩刻石

「美術を通して生徒たちに学校の楽しさを教えたい」

中学校の美術教師である父の言葉です。私自身、図工や美術の時間が大好きで、時間割の中に図工や美術を見つけるとワクワクして待ちきれないというほど楽しみにしていたような子どもでしたから、父のこの言葉を聞いた時にどこか共感する部分を感じていました。そして私はこの質朴で平明な言葉の中に、30年近く中学校の現場で戦ってきた父の美術教員としての信念の一端を垣間見るようになり、その真実性とひたむきさを信頼し、誰よりも惹きつけられるようになっていったのです。

そんな父への憧れから美術教師を志すようになり、福岡教育大学に進学し、美術及び美術教育について学びました。様々な分野の制作に取り組み、美術館やギャラリーにも積極的に出向き、多種多様かつ神韻縹渺たる作品たちに魅了される一方で、美術教育の奥深さや面白さについても夢中になり、自分自身のさらなるスキルアップを図りたいという望みを実現するべく、鳴門教育大学大学院への進学を決意しました。

決意とともに新たなキャリアへの期待を抱いて鳴門にやってきた私でしたが、大学が山や海に囲まれた島の中にあるために、最初は移動や買い物などが非常に不便で思わず面食らったものです。また、同じコースの仲間も人数が少ない上に専攻が実技と理論で分かれてしまうため、院生室でも基本的にはたった一人でした。それも相俟って「何

### ◆ 芸術系コース（美術） 碇 勝 貴

もない寂しいところだな」と感じることもさえありました。ただ、少しずつ生活に慣れてくると山や海に囲まれた自然豊かな景観に対して静穏と美を感じる余裕が出てきました。さらに学年が上がるとう理論系のゼミ生が増え、院生室がにぎやかになり、居心地の良さを感じるようになりました。2年経った今では鳴門が、鳴門教育大学が大好きになりました。

さて、修士論文では指導して頂いた先生に恵まれ、素晴らしい環境の中で研究に取り組むことができました。また、美術館でのボランティア、附属中学校での非常勤講師など、ここに書ききれないほど多くの学びの機会を得ることができ、本当に貴重で幸福な2年間を過ごすことができました。もちろんうまくいかないこともありましたし、自分は教員に向いていないと感じる瞬間も多々ありました。しかし、そんなときにこそ父の言葉が、信念が、困難に立ち向かう勇気を与えてくれたのです。振り返ってみれば、父を含むたくさんの方の支えがあったからこそ、現在の私、そしてこれからの私があるのだと自覚しています。

最後になりますが、先生方や同じコースの仲間たち、お世話になったすべての方々に心より感謝を申し上げます。受けた恩を心に刻み、自らの学びとともに子どもたちに還元できるよう、現場でひたむきに頑張っていこうと思います。本当にありがとうございました。

# 学園を築立つ前に

## 学びに感謝 出会いに感謝

2017年4月5日、咲き始めた桜の下で迎えた入学式が、ずっと前のことのように、でもつい最近のことのようにも思い出されます。

オリエンテーションで教授からいただいた「立ち止まる『勇気』と『感謝』の気持ちを」という言葉が心に残っています。学校現場では、目の前の忙しさに追われ、立ち止まる余裕も、振り返る時間もなく走り続けてきた日々でした。立ち止まり、学ぶ機会を与えていただいたおかげで、大学構内に咲く、四季折々の花を眺める心の余裕ができ、ゆったりと流れる時間の中で、これまでのことを振り返りながら、充実した毎日を過ごすことができました。

教職大学院では自分の研究テーマにかかわらず、様々な分野を専門とされている先生方の講義を受けることができました。私はこれまで、経験知に頼りながら日々の授業や生徒指導、学級経営を行ってきました。子どもたち一人一人を大切に、温かい学級づくりを目指して実践を積み重ねるにつれて、少しずつ自分なりの方法を身に付け、手応えも感じていましたが、様々な講義やゼ



〈高知県大川村への視察研修〉

### ◆ 教職実践力高度化コース 坂田 美佳

ミでの指導を受ける中で、自分に足りていなかった理論知の大切さを実感しました。とても新鮮な経験で、教師としての専門的知識を深めるとともに、広い視野で物事を見る視点を与えていただきました。

県庁や警察署、児童相談所等を訪問しての研修では、初めて知ることが多くあり、外部機関との適切な連携の仕方を学びました。その他、先進校への視察研修等、学外での貴重な経験は、大きな財産となりました。

また、共に学んだ院生同士での会話からも、新しい学びが多くありました。校種や勤務地が違って、同じ世代として感じてきた、課題や問題意識は共通していることが多く、本音で語り合える仲間がいることに感謝する日々でした。

大学院の先生方、10期生の仲間、講義や実習を通してお世話になった方々…出会うことができたすべての方々のおかげで、今の自分があります。今後も真摯な学びを続けながら、これから出会う子どもたちや先生方と一緒に、温かい学級、学校を創っていきたいです。



〈笑顔あふれる院生室〉

# 先輩からのメッセージ



## 黄金の一年間

◆ 平成29年度卒業生 久保佳加

私は、昨年の3月に鳴門教育大学の小学校体育科教育コースを卒業し、現在は徳島県で小学校教諭をしています。2年生24人の学級担任として、子どもと共に成長していけるよう、日々奮闘しています。

学園だよりを執筆させていただくにあたり、この1年を振り返ると、出会いと学びに恵まれた貴重な1年でした。新社会人、初任者教諭、初めての学級担任…。4月の私は何もかもが初めてで、1年間を終えられるのか、不安しかありませんでした。うまくいかずに悩むこともたくさんありましたが、それ以上に失敗から学ぶことがたくさんありました。恵まれた環境の中で、多くの先生方からご指導・ご助言をいただき、自分自身の成長を感じることもできました。

ここからは、私の教員生活の一部を紹介します。

### 【1日の生活】

06:50 ~ 07:10	出勤
07:20 ~ 15:00 (水曜は~16:00)	学習指導、生徒指導、 給食・清掃指導 など… 子どもと一緒に過ごす時間
15:00 ~ (木曜は放課後に校内研修あり)	・相学級の先生との打ち合わせ ・保護者への連絡 ・翌日の授業準備 ・宿題やテストの丸つけ ・学年だよりの作成 ・成績処理 ・初任研の準備 (指導案など) などなど… やることが多くて、いくら時間があっても足りません… でも、どうにかなります (笑)



### 【大変だったこと】

#### 1. インフルエンザで学級閉鎖になったこと

学級閉鎖が決まった日は書類や課題の作成に追われました… (参観日1週間前に) 4日間も学級閉鎖になったので、その後もすごく大変でした…

#### 2. 日々の教材研究

仕事量がとても多く、限られた時間の中でしなければいけないので大変です。

#### 3. 出張の準備

子どもが飽きないように、5時間分の自習プリントや課題を用意するのが大変でした。  
(その後の丸つけはもっと大変でした…)

### 【うれしかったこと】

#### 1. 子どもの成長を共有できること

子どもはできるようになったことを、笑顔で報告しに来てくれます。特に小学校は学級担任制なので、子どもの成長を身近に感じられ、とても嬉しいです。

#### 2. 子どもに毎日会えること

みんなが元気に登校してくれることはとても嬉しいことだと気付きました。

#### 3. 出張に行くのを寂しがってくれること

子どもたちには絶対言いませんでしたが、素直にうれしいです。

教員は仕事量も多く、とても大変な職業ですが、それ以上の喜びややりがいがあります。そして何より、周りの先生方はとてもあたたかく、何でも優しく教えてくださるので心強いです。

皆さんも自分の夢に向かって頑張ってください。応援しています。



# 退職にあたって

## 辛楚と恪勤

◆ 言語系コース（英語）教授 前田 一平

国立大学教養部の廃止に伴い、藁をもすがる思いで本学の採用人事に応募し、鳴門への逃避行となりました。なぜか、着任早々、国際交流協定書と私費外国人留学生特別選抜入試要項等々の英訳を任され、教免法的大幅改定と二校種免許の取得条件を満たす現行の学部カリキュラムの編成メンバーとなり、仕上げに4年間の時間割シミュレーションを命じられ

た直後に手術入院となりました。これは波乱の25年の序章にすぎなかったわけですが、その一方で、学生たちと文学を語らう授業やゼミは私自身の学びとなり、四国の片隅から発信する研究は全国学会と中・四国学会の会長を拝命するに至りました。四半世紀、私の辛楚と恪勤の額縁となってくれた四季美しいキャンパスに感謝したい。

## 人生の半分を過ごした鳴門

◆ 自然系コース（数学）教授 松岡 隆

本学の創設時に赴任してきてから、あっという間に33年が過ぎ、人生のちょうど半分を鳴門で過ごしたことになります。赴任したころは大学を新しく創り上げていく自由な雰囲気ですっかり本学が気に入ってしまいました。約20年前に本学で、教科内容学研究が創始され、また本格的な国際協力活動が始まり、それらに関わることになったことで、数学の教育研究だけの生活が大きく変わりました。国際協

力では、南アフリカを2カ月間訪れたことが特に思い出深く、また最後の3年間を国際交流に従事することになりました。数学の中にいたのでは決して触れることのなかった多くの経験や、本学の方々を含めた多彩な人々に会うことができ、大学での人生を面白く過ごすことができました。本学の皆様方に感謝いたします。

## 「声とからだ」に向き合って

◆ 芸術系コース（音楽）教授 頃安 利秀

ドイツとスイスに於ける声楽に関する研究と仕事の後、平成3年に鳴門教育大学に着任して以来、27年間の大学教員生活の中で、本当に多くの喜びを味わうことができたのは、ご指導いただいた先輩や同僚の先生方、そして私の未熟な授業につきあってくれた多くの学生諸君のお陰だと感謝しています。大学院の広領域科目「教師のための声とからだ」とこと

ば」という授業を担当することで、自らの「声とからだ」に徹底的に向き合う事ができたことは、教育者として、且つ研究者としても最大の贈り物であったと思っています。まだまだ研究が終わったわけではなく、「人間とは」という永遠の課題にこれからも向き合っていくつもりです。ありがとうございました。



# 退職にあたって

## 退職のご挨拶

◆ 芸術系コース（美術） 准教授 森 真 美

中学校教員として37年間、そして縁あって鳴門教育大学教員として5年間、併せて42年間の教員人生が終わろうとしています。無事退職の日が迎えらるることにほっとすると共に一抹の寂しさも感じています。

大学で勤務し始めたときは、同じ教員といっても勝手が違い、戸惑うことも多かったのですが、就職支援室の事務職員の皆さんや、多くの教員の方々に助けられ5年間を過ごすことができました。心より

感謝申し上げます。

振り返れば、学生や院生の皆さんが就職活動にひたむきに取り組む姿に、感銘を受けたり励まされたりする日々でした。そして就職活動を通して、一回りも二回りも成長していく皆さんと共に歩めたことは、私のなによりの喜びでした。新しいステージでの皆さんの活躍をお祈りしています。ありがとうございました。



## 退職に当たって

◆ 生活・健康系コース（保健体育）教授 乾 信 之

昨今の公教育の衰退を思うにつけ、“社会的共通資本”を持ち出すまでもなく、公教育がなぜ市場的な基準に基づくのではなく、社会全体に共有される“大切なこと”として、扱われなくなったのか。

昨年、没後50年の藤田嗣治は裸婦を描いて名声を得たが、戦時中戦場の絵を描かざるをえなかった。そこまで極端でなくても、法人化以降の大学は様々な制度変更を強いられたが、私の場合はかろうじて古典的な大学人の型をなぞることができた。

古典的な大学の師弟関係で思い浮かぶのは寺田寅彦と中谷宇吉郎の関係である。昭和の初期、後に人

工雪を作った中谷が理研から北大に赴任する時、師の寺田から送られた言葉で、これからも大学に残る人にエールを送りたい。

「若い連中を教育するには、無限に気を長く待たなければいかんよ」

「新しい所へ行っても、研究費が足りないから研究ができないということと雑用が多くて仕事ができないということは言わないようにし給え」

「学術雑誌ばかり読まずに、時々専門以外の本も読むように」



## 退職にあたって

◆ 生活・健康系コース（技術・工業・情報）教授 尾 崎 士 郎

本学に着任したのが平成2年6月でした。おそらく、高速艇で大阪弁天島か神戸中突堤から淡路島津名港に向かいバスで鳴門に着いたのだらうと思います。

はじめは緊張していたに違いないのですが、何度も往復したその途中の景色は珍しくて美しくて長閑でした。何時からとは不明ですが、私の意思とは無関係に時が大急ぎで過ぎるようになっていました。

気が付くと退職の区切りが迫ってきて、両手に未

解決の作業やちょっとした希望を抱えて困惑している私を追い抜いて、猛スピードで通過しようとしています。

大学は様変わりし続けようとしています。皆様にあってはご健康で、嘗てのあの癒しのような景色に出会う機会があると良いと願っています。お世話になりました。心から感謝しています。



## 光州教育大学での授業研究研修 —両国の懸け橋となるような主権者の育成を目指して—

◆ 社会系コース 准教授 <sup>いの</sup>井 <sup>うえ</sup>上 <sup>な</sup>奈 <sup>ほ</sup>穂

昨年度から、光州教育大学及び附属小学校にご協力いただき、日本と韓国の社会科の授業を比較し、よりよい主権者の育成につながるための授業の在り方について検討している。今年度は、「異なる文化との共生」及び「ルール」をテーマとした授業の参観と検討を行った。そのうちの一つ、小学校6年生授業「おいでよ！大阪は初めてでしょ？」を紹介しよう。

本授業では、大阪への旅行計画を立てるという作業課題が設定されていた。参観した本時は、その計画を発表するというものであった。写真は発表会の様子である。

発表した6つのグループの中から印象に残ったものが2つあった。1つは、大阪の交通について調べたものである。韓国の仁川空港から大阪に行くためには、関西国際空港を使うのが便利である。関西国際空港を起点とし、ユニバーサルスタジオなど、「大阪で行きたいところ」までの移動距離、時間、費用を実際の地図をもとに発表していた。2つ目は、大阪の美味しいものについて調べたものである。単に、食べ物の写真、名称だけでなく、その価格、販売している店の電話番号、住所などを紹介していた。現実的な観点からの調査、市販の観光パンフレットのような情報が示されている。通常、「異なる文化」を取り上げる場合は、

対象化して説明することが多い。しかし、今回参観した授業では、「大阪旅行」という実行可能な計画を設定させることで、日本についての理解を深める構成となっていた。

授業後は、日本側・韓国側の双方の学生で授業検討した。同一の授業についての観点の違いも含め、多くの知見を得ることができた。

本研修では、授業研究だけでなく、当該国の歴史的な背景を理解するための事前学習やフィールドワークも行っている。韓国と日本は、隣国であり、歴史的にも地理的にも深い関係があり、それゆえの対立も大きい。訪問校である光州教育大学は、かつて、光州事件が起こった場所でもある。今回は、1980年光州事件を世界に伝えたドイツ人記者の移動の追体験を意図し、仁川空港から光州へは高速道路を利用し、バスで移動した。40年前とは言え、ソウルから光州までの道のりの長さを実感することができた。体験することで、歴史を感じることができたのではないかな。

学生が個人と個人とのつながりを深め、それを前提としながら、国と国、国と政府の関係を考えることが、両国の懸け橋となるような主権者の育成できる教員の資質形成につながる。本研修がその一助となれば幸いである。



授業検討会の様子



授業の様子



## 初めて素晴らしい学外研修の経験

トンウィチアン タナポン

◆ 特別聴講生 TONGVICHIAN Tanapon (タイ)

今回の学外研修は平成30年11月10日から11日まで、京都と滋賀県に行きました。

まず、研修の中で最もよかったところは「島津製作所創業記念資料館」です。世界とか日本などの歴史に興味を持っているので、あのような所に行ったら、嬉しく感じました。このような研修を通じて、様々な歴史の知識をもっと得ました。また、そこに入ったら、過去の発明品を見たので、面白いと思います。そのような発明品は現代の発明品と違うところがあります。そちらの専門家から聞きましたが、時代とともに発明品が進歩されているとのことでした。各時代の発明品を見たら、明らかに理解できるようになりました。一番好きな所だと思っています。

その後、「京都国際マンガミュージアム」を訪れました。その時、私は日本語のマンガやタイ語、英語の翻訳のマンガを見つけることができたので、面白いと思いました。また、タイにはないマンガを読むこともできました。もし、機会があれば、是非もう一回いきたいと思っています。

翌日11日は、「彦根城」に行きました。ガイドさんによれば、江戸時代に建てられたお城だそうです。城の中に入ると、構造の複雑さに驚くとともに、城のたたずまいに歴史を感じることができ

ました。

それから、「八幡堀」を訪れました。あちらに  
いる間、中のところが見られました。八幡堀を通して昔の日本人の考え方や知識、歴史が見られるようになりました。例えば、昔の建物や運河の交通、海を渡った乗り物などです。

今回の外国人留学生学外研修に参加したことから、日本の技術の進化や以前の日本人の生活など様々な知識を得ました。初めて日本で見学したので、楽しかったです。また、この学外研修を通じて、参加した日本人や他の留学生と親しむ機会もあり、新しい友達もできたため、日本でのいい経験になったのではないのでしょうか。

今後の研修に参加する機会があれば、文学の博物館とか日本の美術館に行きたいと思っています。私はタイで日本文学を勉強したので、日本の文学に興味を持っています。文学の勉強を通じて、各時代の日本人の文化とか歴史などをはっきり見られると思います。

最後に、私たち留学生をお世話してくださった日本人の先生方とボランティアの学生の皆様、誠にありがとうございました。私たち留学生にとっては母国では体験できない素晴らしい経験になりました。





## ジャマイカ・算数教育の現状から考える教育の意義

◆ 国際教育コース <sup>いた</sup>板 <sup>がき</sup>垣 <sup>あき</sup>暁 <sup>ほ</sup>歩

「ハイ、ミスターチン!」。ジャマイカの人たちは、日本人などのアジア人のことを見かけると、このように声をかけてきます。しかし私の場合は、名前で「アキ」と呼んでもらえたことが多かったように思えます。それは、私の名前がこの国の人々が愛して止まない果物「アキー」と同じ発音だったからです。私が自己紹介をすると、みんな笑ってくれました。名前を覚えてもらう、というほんの些細なことですが、海外ではそれだけで嬉しい気持ちになります。ジャマイカに来てよかったと思うと同時に、良い名前を付けてくれた両親に今更ながら感謝しています。

私は9月から3ヶ月間、青年海外協力隊としてジャマイカに派遣され、小学校の算数教育のプロジェクトに携わりました。ジャマイカは中進国と呼ばれていますが、貧富の格差がとても大きく、貧困層はゲットーと呼ばれるスラム街に住み、ギャングなどの抗争も頻繁に起こっているのが現状です。貧富の差を埋めるためにも、子どもの基礎学力の向上はジャマイカの大きな課題の一つです。本プロジェクトでは、「カリキュレーションタイム」という計算ドリルを使って算数教育の向上を目指しています。ジャマイカの小学生は、高学年でも指を使って数を数える子どもが多く、彼らの計算能力を向上させるには、数をただの文字や順番としてではなく、量という概念として理解させる必要があります。このドリルはその役割を果たすことが期待されています。しかし先生もどのように指導すればよいか分かりません。私の活動は、先生方にこの教材をより効果的に活用してもらうために、基本的な算数の概念や数学的背景、指導法について、教員研修を通して助言することでした。実際に小学校を訪れ、先生方と共に授業

を行ったり、子どもがどのような単元の習得に困難を感じているか、テストなどを実施して分析したりしました。3ヶ月でジャマイカのためにできることは本当に限られていましたが、私が気づいたことや分かったことが今後、プロジェクトの発展に役立てられれば幸いです。

また今回のボランティアの参加は、私自身にとっては大きな経験となりました。特に、短い期間の中で現地のカウンターパートの人たちとの信頼関係を構築できたことは大きな自信になりました。現場のニーズを知り、そのために自分の力を発揮するためには何より人と人との信頼関係が大切であること、また、他国の教育現場での活動を通して、子どもが「分かる」ということに喜びや楽しさを感じ、そのために先生が努力するという姿は、どの国に行っても同じなのだということにこの活動を通じて気づかされました。全ての子どもに平等にチャンスを与えるものこそ、教育の意義であると考えます。私の活動がジャマイカの先生を動かす、とまではいなくても、ほんの少しでも彼らの背中を押す手助けになれば幸いです。





# 國際交流



## 幼稚園

## 保育の楽しみ

◆ 附属幼稚園 居上 真梨子

私は保育者になって3年目を終えようとしています。1年目はただただ「子どもと生活すること」を楽しんでいたと思います。今は保育の楽しみとは、「考えること」ではないかと感じています。「考えること」とは、子どもに対してこうなってほしいという私の思いは持ちつつ、子どもの思いや実態に沿った生活を「考えること」です。

このためには、「子どもと話すこと」が欠かせないということに最近気付きました。これまでは、子どもの言動からその裏にある思いを読み取って生活を組み立てようとしてきました。しかしそれでは、私自身の思いが強い生活になってしまいがちでした。実際に子どもと話をしてみると、子どもは私が思っている以上に自分の思いをしっかりと持っていることに驚かされました。「子どもと

話すこと」で、私の思いと子ども自身の思いとの接点を探り、子どもが主体的にそして幸せに生きてゆくための保育の道筋を「考えること」はなんと難しいことか、と日々痛感しています。

うまくいかなないことだらけの毎日ですが、これからも子ども達と話しをしながら「考えること」を続けていきたいと思います。



## 小学校

## 修学旅行

◆ 附属小学校 教諭 久次米 昌 敏

附属小学校の6年生は、10月22日から24日まで2泊3日の修学旅行に行きました。

初日の22日は奈良に行きました。法隆寺では立派な木造建築に感動し、東大寺では金剛力士像や大仏のスケールの大きさに驚きました。午後は奈良公園で自由行動を行い、夜は握り墨体験を行いました。2日目の23日は京都に行きました。清水寺では清水の舞台から京都を一望し、美しい景色を堪能しました。また、華やかな金閣寺と落ち着いた銀閣寺という対照的な2つのお寺を見学しました。その他に、二条城の見学や体験学習も行いました。最終日の24日は大阪城を見学し、USJで遊びました。この3日間は、子どもたちにとって小学校生活の一番の思い出となったようです。



## 中学校

## 未来を拓く力を育てる社会科学習

◆ 附属中学校 教諭 大谷 啓子

平成6年度以来、徳島県では24年ぶりの開催となる、第51回全国中学校社会科教育研究大会が11月8日・9日、アスティとくしまで行われました。2年2組38名の生徒と地理的分野「中国・四国地方」の授業を行いました。

近年、新聞などでも取りあげられている『四国新幹線構想』について、「四国新幹線がもしも開通したら、徳島県をはじめとする中国・四国地方の産業は発展するかもしれないか」を考え話し合いました。中国・四国地方という地域を多面的・多角的に捉える学習を経て、地域の社会的な論争問題について、資料などの根拠に基づいて結論を判断し、その理由を論理的に説明するという社会的判断力の育成を図る授業でした。

他地域を走る新幹線の事例、ゲストティーチャーによるお話から、生徒は

自分の考えが揺さぶられる場面も時にはありましたが、根拠をあげて論理的に考えを述べることができました。参会者からも「生徒が生き生きと学習していました。」「生徒がよく考え発表や記述ができていました。」などの感想が聴かれました。

4年後には選挙権を得て、社会の在り方を考え、自分で判断し、立候補者を選んでいく生徒たち。この授業が未来を拓くものになってほしいと強く願っています。



たくさんの先生が興味をもってくれました。



近畿から大分を結ぶ四国新幹線構想。

## 特別支援学校

## 本校のセンター的機能

◆ 附属特別支援学校 発達支援センター長 川 人 健 司

平成19年4月より法的に位置づけられた特別支援教育では、通常の学びの場と特別支援学校をつなぐ流れをつくるのが重要です。それは「交流及び共同学習」と「相談（センター的機能）」によって実現していく必要があります。

本校のセンター的機能では、保幼小中高等の学びの場への訪問や来校の直接指導、研修講師など年間150件以上の相談を行っています。一例として、来校相談では、発達の気になる幼児に遊びを通してコミュニケーションの基礎的行動を教える「すぎのこ教室」の実践を行いました（平成24、25年度事業。写真参照）。

また平成26、27年度は文部科学省より委託され、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の専門家を派遣して関係する保育士、教員等の専門性向上を図る事業を行いました。この専門家活用は、現在も学長裁量経費で継続実施しており、地域か

ら高い評価を得ています。

専門家活用を通して、地域の学びの場では身体や感覚の育ちが気になる子がたくさん在籍していることがわかりました。例えば「鉛筆の持ち方アンケート」からは小学生のおよ半数が身体に疲れをもたらすような持ち方をしているのではないかと示唆されました（N=703）。特別支援教育を深めることは、通常の学びの場の教育をよりよくしていくことにつながります。学生の皆さんも特別支援教育に興味を持って大学で学んでほしいと思います。



# 鳴潮祭を終えて

## 鳴潮祭を終えて

◆ 第35回鳴潮祭（大学祭）実行委員会 委員長 池田大輝

皆さんにとって今年の鳴潮祭はどんな学祭になりましたか。学祭の裏側というのは、想像以上に大変なものでした。数多くのスポンサー様への挨拶回り、パンフレットの製作、マスコットキャラクターの募集、企画の思案、模擬店準備など前途多難で多少のトラブルもあったものの、実行委員12名を中心に、学部1.2年生、大学の関係者の方々の多くの協力があったおかげで無事本番を迎え、大きなトラブルもなく終えることができました。学祭期間中は今年掲げたテーマの通り、多くの笑顔が見ることができ、頑張った良かったと実行委員全体で成功を実感することができました。

また例年取り組んでいる消費者教育において今年度はエコ取り組みコンテストを行い、学祭参加団体すべてにエコの意識を持ってもらうことを目標に取り組みました。その中で多くの学科、団体

が積極的にエコ活動に取り組んでいる様子が見られました。来場していただいた一般の方にも声かけを行うなど大学祭を通じて多くの人のエコ意識の向上につながったのではないかと思います。

最後になりましたが、第35回鳴潮祭を開催するにあたり協力していただいたスポンサーの方々や地域の皆様、マスコットキャラクター募集に協力いただいた小学生の皆様、大学関係者の皆様、そして実行委員としてともに躍動してくれたメンバー、本当に多くの方々に支えていただき、今年度も無事大学祭を終えることができました。心から御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

第35代実行委員会は次期大学祭が今まで以上に盛り上がることを期待しています。

（学校教育学部 中学校教育専修 国語科教育コース 2年）



# 学生会・院生会だより

## 1年を振り返り

私が学生会の会長を務めさせていただいて、早1年が過ぎようとしています。今年度は1年生が多く学生会執行部に入ってくれたことで、よりスムーズに楽しく活動することができました。

学生会としては、部活動紹介、かき氷大会、ウインターイルミネーション、ココアデーといった毎年行っている行事に加えて、部活動・サークル紹介として渦フェスを実施しました。より楽しい活動を行うには、みなさんの積極的な協力が必要です。来年度もみなさんの充実した学生生活のために学生会執行部一同、新たな行事や毎年行う行事の充実目指し、頑張っていきます。

最後に、学生会執行部として残す行事は卒業・

### ◆ 学生会長 居 神 篤 史

修了記念パーティーのみとなりました。お世話になった先輩を気持ちよく送り出せるよう、院生会の皆さまと協力して準備していきたいと思いません。1年間ありがとうございました。



## 今年度から来年度

私が院生会の会長を務めさせていただいて、早1年が経とうとしています。私自身、至らない点が多く、たくさんのご迷惑をおかけしました。しかし、院生会執行部のメンバーをはじめ、多くの方々に助けていただき、ここまで行事を運営することができました。本当にありがとうございました。

10月7日には、第4回鳴門リレーマラソンが鳴門教育大学で開催されました。忙しい中、院生会や学生会から多くの方がボランティアとして参加しました。大会運営に関わることができ、院生会一同嬉しく思っております。

12月2日には、ソフトバレーボール大会を行いました。休日にもかかわらず、多くの方が参加してくださりました。参加選手はもちろんですが、応援の方も気合十分の様子で、非常に熱い大会となりました。

今年度、残す行事は学位授与式後に行われる卒

### ◆ 院生会長 竹 下 早 慧 子

業・修了記念パーティーのみとなりました。学生会のみなさんと協力しながら、先輩方に喜んでいただけるようなパーティーにできたらと思っております。

来年度は、新たな院生会が発足されます。今年度のよかったこと、改善点を来年度へ引き継ぎ、よりよい院生会になればと思っております。来年度も院生会をどうぞよろしく願いいたします。



## サッカー部

◆ 前 田 健 吾

「おもしろいサッカーをしていく」というチームコンセプトの基、私たち鳴門教育大学サッカー部は活動をしています。昨シーズンでは、四国大学サッカーⅡ部リーグ3位という結果ながらも、リーグ上位チームを脅かすほどの活躍を見せました。このような結果の要因として、初心者でも活躍できる環境があることや、新入生でも必要不可欠なプレイヤーばかりだということが挙げられます。具体的にはプレイヤー一人一人の長所を、上級生や経験者が発見し、伸ばしていく体系を作っています。また、私たちサッカー部は、学生のみで運営しています。しかし、ただ闇雲に運営しているという訳ではなく、プレイヤーの成長に関しては、指導者ライセンスを所有している人を中心に、チームを作り上げることに關しては、メンバー全員から圧倒的信頼を獲得しているプレイヤーを

中心にするなど、仕組みを作って運営しています。大学の内に少しでも集団の一員として重要な役割を任せたい、という人には是非入っていただきたいです。練習時間は水曜日の15:00からと、土曜と日曜の9:00からの週3回、鳴門教育大学サッカーグラウンドで練習しています。



## 女子ハンドボール部

◆ 中 川 羽 菜 恵

私たち、女子ハンドボール部は水曜日15時から3時間、木曜日18時から3時間、日曜日9時から3時間と週に3回、練習をしています。年に3回ある大会で勝つために、力を合わせてがんばっています。ハンドボールは初心者で大学から始める人が多く、現部員9名のうち8名が初心者です。わからないこともあります。お互いに声を掛け合い、明るい雰囲気の中で練習しています。大会では、なかなか勝ち進めませんが、今、春の大会に向けて力をつけています。

メンバーはとてにぎやかな人が多く、練習中や試合中에서도笑顔が飛び交い、苦しい場面でもみ

んなで支え合っています。去年の4月の大会で久しぶりに「勝利」を味わうことができ、そこから1年練習してきました。次の大会で勝ち上がることができるようまだまだレベルアップしていきます。

一人ひとり大会に向けて目標を持って毎回、練習しています。また、オフ期間には部員全員でいろんなところへ出かけたり、様々なイベントを行ったりしています。本当に仲の良い部活です。こんな女子ハンドボール部をよろしく願います。

# 課外活動 News サークル紹介

## 合唱団“tadpole”

◆ 福澤 佳奈

合唱団“tadpole”は現在鳴門教育大学の学部1年生から3年生合計13名で週に1回活動しています。13名という少人数の合唱団ですが、少人数ならではのアットホームな雰囲気笑顔の絶えない合唱団です。

ほとんどの学生が合唱未経験者ですが、徳島県合唱祭、徳島県合唱アンサンブルコンテストなどに出場し、より良い合唱にするために全員で意見を出し合い、合唱の質を高めることができるよう、日々練習を行っています。

それだけではなく、大学祭や地元のショッピングセンターでの演奏、老人ホームでの訪問演奏活

動を行い、地域の方々と合唱を通して交流をするなど、充実したサークル活動を行っています。



## アカペラ同好会

◆ 長谷川 大航

皆さん、歌は好きですか！こんにちは、私たちはアカペラ同好会「meetgoodbye」です！毎週土曜日午前10時から活動しています。主な活動としては、私たち自身が「楽しむ」ことを第一に、徳島ヴォルティスのホームゲームでのステージ出演、学祭などの学内でのステージ、大学内でのゲリラライブ、SNSへの投稿などをおこなっています。歌っている曲は様々で、懐かしい名曲から、最近の流行りのJ-POPなど、幅広く歌っています。

皆さん、「アカペラ」と聞くと「難しい」というイメージを持っていませんか？確かに、みんな息を合わせ歌う、自分たちの声だけで表現するというのは難しいと思われがちです。しかし、みんなが一つになり綺麗な音、曲が出来上がった瞬間の喜び楽しさは計り知れないものです！現メン

バーのほとんどが、私も含め音楽経験のないメンバーが多いですが、歌うのが好きという気持ちはだれにも負けないメンバーばかりです。まだ見ぬ無類の歌うことが好きなあなた！あなたと歌えることを楽しみにしています！ぜひ、私たちと一緒に楽しく歌いましょう。



# 健康手帳

## 喫煙の害について

◆ 心身健康センター所長 伊藤弘道



今回はタバコ（喫煙）の害についてお話したいと思います。

まずタバコの煙の中身についてですが、4000種類以上の化学物質が含まれ、その内約200種類が有害で、特に発がん性物質は60種類超にのぼるといわれています。タバコの煙には主流煙（喫煙者自身が直接吸い込む煙）と副流煙（火がついているところから環境中に立ち昇る煙）があり、副流煙の方がニコチン、タール、一酸化炭素などの有害物質を多く含みます（主流煙の数倍）。

喫煙により様々な疾患の発症リスクが増加することはご存知のことと思います。特に、肺がんを始めとする各種のがん、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、喘息、脳卒中、心筋梗塞など直接の死因となる主要な疾患の発症リスクが上がるため、結果として喫煙者の平均寿命が低下することとなります。喫煙はわが国では死亡やがん罹患に関する最大の危険因子とされており、喫煙関連死亡者数は年間約13万人にものぼるとされています<sup>1)</sup>。

受動喫煙でも同様の疾患のリスクが上がります。特に未成年者や患者に対しては悪影響があります。母親のおなかの中にいる胎児に対しては早産、低出生体重児になるリスクがあがり、乳児（0歳児）では乳幼児突然死症候群のリスクがあがります。わが国での受動喫煙関連死亡者数（被害者といってもいいかもしれません）は年間約1万5千人にのぼると推計されています<sup>2)</sup>。

わが国での喫煙率はどの程度だと思いますか？幸いなことに経年的に低下傾向にありますが、2017年度でまだ男性29.4%、女性7.2%の方が喫煙しています<sup>3)</sup>。皆さんは若いので周囲の友人

に喫煙者はあまりいないと思います。喫煙を始めてほしいですし、喫煙者は受動喫煙防止の観点に加え、自身の健康面、将来受け持つ児童生徒への教育面などの観点からも是非禁煙にチャレンジして下さい。喫煙者は周囲の非喫煙者を喫煙に誘わないでほしいですし、非喫煙者はもし喫煙の誘いを受けても断れる強い心をもってください。多くの病院には禁煙外来があり、禁煙補助薬も薬局で市販されているものもあります。年配の方からは禁煙の難しさを聞くかもしれませんが（ニコチン依存、心理的依存による）、医療の進歩で、禁煙は以前よりもずっと成功しやすくなっています。喫煙者ゼロに向けて皆でがんばっていきましょう！

- 1) Ikeda N et al.: Adult mortality attributable to preventable risk factors for non-communicable diseases and injuries in Japan: a comparative risk assessment. PLoS Med 2012; 9 (1) : e1001160
- 2) 片野田ら: たばこ対策の健康影響および経済影響の包括的評価に関する研究. 平成27年度厚生労働科学研究費補助金 総括研究報告書
- 3) 厚生労働省 H29年度国民健康・栄養調査





# 図書館だより

平成31年4月から視聴覚室がラーニング・コモンズの機能を持つ環境に生まれ変わります。また、児童図書室内に英語絵本が利用できるKids English Libraryを設置します。お楽しみに！

その他提供しているサービスから一部をご紹介します。

## ①ラーニング・コモンズ室

模擬授業エリア及びグループ学修エリアの2つのエリアからなるラーニング・コモンズ室を設置しています。いずれのエリアにも電子黒板、プロジェクター等があり、グループ学修、模擬授業等に利用できるようになっています。模擬授業エリアの利用には図書館カウンターでの申込が必要です。予約は1週間前から受け付けています。

## ②徳島県立図書館資料の取寄せ

徳島県立図書館の資料を無料で取り寄せできます。事前に登録が必要ですので平日17時までに図書館カウンターで手続きをしてください。ぜひ徳島県立図書館の豊富な資料をご活用ください。

## ③データベース等

図書館ウェブページ (<http://www.naruto-u.ac.jp/library/>) で和洋電子ジャーナル、新聞記事、電子書籍などの検索・閲覧ができます。レポート、卒論・修論、日々の学習にご利用ください。

## ④マイライブラリ

学内の方に発行されているユーザーID（学籍番号or職員番号）とパスワードを使ってログインすると、オンライン（インターネット上）で図書館に関する各種の利用状況確認や操作ができます。

- 貸出中図書の予約
- 現在借りている本の情報や返却期限の確認
- 貸出期間の延長（予約者がいない場合に1回だけ可能です。）
- 他大学からの論文コピーや図書の取寄せ依頼  
ご利用は、図書館ウェブページの「マイライブラリ」バナーをクリックしてください。

## ⑤本の交換コーナー「よみがえる」

図書館エントランスホールに図書館の利用者が自由に本を交換できるコーナー「よみがえる」を設置しています。部屋



が本であふれかえったとき、卒業前に引っ越し荷物を減らしたいとき、本を捨てずに「よみがえる」に持って来てください。

## ⑥卒業・修了後の図書館の利用について

卒業・修了後も図書館を利用することができます。利用方法としては、以下の2つの方法があります。

### ◎来館しての利用

図書の貸出、館内資料の複写等ができます。

図書の貸出をご希望の場合は、身分証（運転免許証、保険証等）を持参してください。「卒業生・修了生利用証」を発行します。

### ◎非来館での利用

利用者から申込みのあった図書について郵送等により貸出を行っています。なお、送料は申込者負担となります。

貸出手続きの詳細については、図書館ウェブページの「一般利用の方へ」→「非来館貸出」をご覧ください。電話でお問い合わせください。（TEL 088-687-6156）

\* 来館貸出、非来館貸出ともに図書の貸出冊数・貸出期間は以下のとおりです。

貸出冊数	貸出期間
8冊以内	1か月以内

※卒業・修了生は雑誌の貸出はできません。

各種サービスについて不明な点があれば図書館カウンターでお尋ねください。

# 学生表彰について

本学には、課外活動等において、優秀な成績を修め、かつ本学の名誉を高めた場合において当該学生又は学生団体を学長が表彰する学生表彰制度があります。

平成30年度における表彰が決定した方々は、次の皆さんです。

氏名(団体名)	所属(学年)		表彰事由
おがわ こうへい 小川 浩平	大学院	教科・領域教育専攻 生活・健康系コース(保健体育) 1年	第72回中国四国学生陸上競技対校選手権大会 男子やり投げ 第2位
たにぐち まさたか 谷口 誠崇	大学院	教科・領域教育専攻 自然系コース(数学) 2年	第69回四国地区大学総合体育大会 男子400mH 第1位
もりとも ゆうた 森友 裕太	学部	小学校教育専修 体育科教育コース 2年	第69回四国地区大学総合体育大会 男子走高跳 第1位
いとう まゆみ 伊藤真由美	学部	中学校教育専修 保健体育科教育コース 4年	第62回全国教育系大学陸上競技大会 女子400mH 第2位
おおたに たくみ 大谷 拓美	学部	小学校教育専修 学校教育実践コース 4年	第89回徳島県陸上競技選手権大会 一般男子 十種競技 第1位
もり あつひと 森 惇仁	大学院	教科・領域教育専攻 言語系コース(国語) 1年	第70回徳島県競書大会 大学一般 特選
むかえ ありさ 向江 有紗	学部	中学校教育専修 国語科教育コース 2年	第70回徳島県競書大会 大学一般 準特選 第70回徳島県競書大会 大学一般仮名 準特選
あかぎ ひであき 赤木 秀明	学部	中学校教育専修 美術科教育コース 3年	第3回「橋のみえる丘絵画賞」 入賞 第30回しんわ美術展 銀賞
かみ あずさ 加美 梓	大学院	教科・領域教育専攻 国際教育コース 2年	大学内外での国際交流活動
【団体】	ラグビーフットボール部 代表者： 岸本 大 (中学校社会4年)		第69回四国地区大学総合体育大会 優勝 第55回全国大学選手権中国・四国地区代表決定戦 兼 第69回全国地区対抗大学大会中国・四国地区代表決定戦 第3位
【団体】	男子バレーボール部 代表者： 松下 宥輝 (中学校理科3年)		平成30年度徳島県大学バレーボール秋季大会 優勝



# 行事予定

2019年度前期

行事等		備考
4月1日(月)～4月2日(火)	春期休業	
4月3日(水)	入学式	
4月3日(水)～4月4日(木)	新入生オリエンテーション	4月18日(木)「履修登録」締切
4月4日(木)～4月5日(金)	新入生合宿研修	※変更期間： 4月19日(金)～4月25日(木)
4月8日(月)	授業開始	
6月11日(火)～6月12日(水)	附属校園観察実習(3年)【附幼・小・中】	
7月31日(水)～8月6日(火)	前期試験期間	※7月16日(火)は、 月曜の授業を実施する。
8月7日(水)～8月31日(土)	夏期休業(大学院)	
8月8日(木)～8月23日(金)	夏期休業(学部)	
8月24日(土)～8月31日(土)	集中講義	
8月26日(月)～9月27日(金)	主免教育実習(長期履修生)【協力校】	←期間中の4週間
8月26日(月)～9月27日(金)	教員インターンシップ(4年)【鳴門市内小・中】	←期間中の2週間
9月2日(月)～9月13日(金)	教員インターンシップ(4年)【附幼】	
9月2日(月)～9月13日(金)	保育所実習Ⅰ(2年)【鳴門市内保育所等】	
9月2日(月)～9月13日(金)	保育所実習Ⅱ(4年)【鳴門市内保育所等】	
9月2日(月)～9月13日(金)	主免教育実習(3年)(長期履修生)【附幼・小・中】	
9月4日(水)	ふれあい実習(事前指導)【学内】	
9月9日(月)	ふれあい実習(観察実習)【附幼・小・中】	
9月10日(火)／9月11日(水)	ふれあい実習(交流実習Ⅰ)【鳴門市内幼稚園】	←どちらか1日
9月18日(水)～9月25日(水)	ふれあい実習(交流実習Ⅱ)【附特別支援】	←期間中の1日
9月2日(月)～9月30日(月)	集中講義(大学院)	
9月29日(日)～9月30日(月)	2年次生合宿研修	

## 就職支援行事予定(2019年)

※詳細は就職支援室で確認すること。

年月日(曜日)	時限	場所	行事名等	内容(予定)	
平成31年1月～7月			教授対策ガイダンス	個人面接、模擬授業、場面指導、集団討論、集団面接等	
4月	3	B101	教員採用試験対策説明会(学内)	教員志望学生への指導・助言	
			5日(金)	4	B101
	中旬～5月下旬			教員採用試験説明会(教育委員会)	教員採用試験について
	10日(水)	4	B201	教授対策ガイダンス(実践編②)	(筆) 各種答申等II、学習指導要領
	11日(木)	4	B201	教授対策ガイダンス(実践編③)	(筆) 特別活動、健康・安全教育、食育、生徒指導
	17日(水)	4	B201	教授対策ガイダンス(実践編③)	(筆) 特別活動、健康・安全教育、食育、生徒指導
	18日(木)	4	B201	教授対策ガイダンス(実践編③)	(筆) 特別活動、健康・安全教育、食育、生徒指導
	20日(土)		B101	教員採用模擬試験③	受験希望者(3回目)【有料】
	24日(水)	4	B201	教授対策ガイダンス(実践編④)	(筆) 教育法規
	25日(木)	4	B201	教授対策ガイダンス(実践編④)	(筆) 教育法規
5月	5月～8月		英語実技講習	英語実技	
	～6月		教授実技ガイダンス(音楽)	音楽実技(弾き歌い)	
	～6月		保育士模試	受験希望者【有料】	
	8日(水)	4	B201	教授対策ガイダンス(実践編⑤)	(筆) 指導案と学習指導、学習評価、学習方法、カリキュラム等
	9日(木)	4	B201	教授対策ガイダンス(実践編⑥)	(筆) 道徳教育、人権教育、特別支援教育
	15日(水)	4	B201	教授対策ガイダンス(実践編⑥)	(筆) 道徳教育、人権教育、特別支援教育
	16日(木)	4	B201	教授対策ガイダンス(実践編⑥)	(筆) 道徳教育、人権教育、特別支援教育
	18日(土)		B201他	教授実技ガイダンス(集団②)	模擬集団討論(2回目)
	22日(水)	4	B201	教授対策ガイダンス(実践編⑦)	(筆) 総合的な学習、環境教育、情報教育、キャリア教育
	23日(木)	4	B201	教授対策ガイダンス(実践編⑦)	(筆) 総合的な学習、環境教育、情報教育、キャリア教育
6月	29日(水)	4	B201	教授対策ガイダンス(実践編⑧)	(筆) 教育原理・教育心理・教育史、一般教養
	30日(木)	4	B201	教授対策ガイダンス(実践編⑧)	(筆) 教育原理・教育心理・教育史、一般教養
	5日(水)	4	B201	教授対策ガイダンス(実践編⑨)	(筆) 教育時事、一般時事、一般教養
	6日(木)	4	B201	教授対策ガイダンス(実践編⑨)	(筆) 教育時事、一般時事、一般教養
	12日(水)	4	B201	教授対策ガイダンス(実践編⑩)	(筆) 適性検査(YG性格検査、内田クレハ <sup>®</sup> リン検査) (講) 一次審査・二次審査の準備と今後の対策
	13日(木)	4	B201	教授対策ガイダンス(実践編⑩)	(筆) 適性検査(YG性格検査、内田クレハ <sup>®</sup> リン検査) (講) 一次審査・二次審査の準備と今後の対策
	15日(土)		B101他	教授実技ガイダンス(個人②)	模擬授業・個人面接(2回目)
	19日(水)	4	B201就職支援 セミナー室等	教授対策ガイダンス(直前編①)	徳島県、兵庫県、神戸市、香川県、愛媛県教員採用試験対策 その他自治体 未定
20日(木)	4	教授対策ガイダンス(直前編②)			
26日(水)	4	教授対策ガイダンス(直前編③)			
27日(木)	4	教授対策ガイダンス(直前編④)			
7月	上旬		教授実技ガイダンス(美術)	図画実技(鉛筆素描)	
	上旬～下旬	体育館・プール	教授実技ガイダンス(体育)	体育実技(ボール・器械運動、水泳)	
	下旬～9月上旬		教授二次対策ガイダンス	個人面接、模擬授業、場面指導、集団討論、集団面接等	

## 編集後記

本号は、本学の研究教育の発展に尽力され本年度をもって退職される先生方、また日々学業・スポーツ等に励み卒業・修了を迎えた学生たちの寄稿を中心に掲載しました。春は、新たな旅立ちと出会いの季節です。すべての皆様に幸多き春となりますように。

